

Kibitō

No.15
2016.

7/30

発行 吉備人出版
お問合わせ 本誌の注文は
岡山市北区丸の内2丁目11-22
TEL 086 2335 3456 FAX 086 234 3210

現在の風景を
江戸の時間に重ねて歩く――。



尾島 治 (津山郷土博物館館長)
定価1600円+税



津山城下町絵図
(定価81723円頃※推定)付



〇〇町(ちょう)とはなして
〇〇町(まち)で読むんだぞ



妖怪「小豆研」が
橋下に出没!!

津山市周辺の発展は、信濃川中島の海津城主だった森忠政が、美作18万5百石を与えられ領主として入国したことに始まります。忠政は、吉井川と宮川の合流点を見下ろす小高い鶴山を城地として定め、「鶴山」(つるやま)を「津山」に改めたとされています。そして、津山城を中心として整然とした都市計画が実施され、城下町がつくられました。

■現在の津山の町は当時の古い家並み町割りや道路、排水路など城下町の構造が殆どそのまま残る、全国的にみても数少ない町です。

■『絵図で歩く津山城下町』は津山の町を6つのコースに分け、道順に沿って、津山城内と、城下町のスポットを古地図と一部CGで解説します。巷末折込の江戸時代と現在、2枚の地図を眺めたら、次にはそれらを持って、実際に町を歩いてみてください。

■注意深く観察して、現地であらうこちらに残る歴史のエピソードに出会い、当時の人々の営みや変化を感じとれたら、より深い歴史散策の旅になると思います。

特集 『絵図で歩く』

「歴史」って「こころ」も
「歴史」って「こころ」も
「歴史」って「こころ」も



これもお
暑さ対策
よくお戻しします。



「絵図で歩く 岡山城下町」
倉地克直・監修
岡山大学附属図書館・編
定価1500円+税



「絵図で歩く 倉敷のまち」
倉地克直・山本太郎・
吉原 睦
定価1600円+税

現在の岡山市は、今から400年前につくられた城下町をまことに発展。1945年の岡山空襲で町の中心部は殆ど焼けてしまった。その面影はまったく残っていないかのように見える。しかし、お堀りや地名などあちこちに城下町の名残を窺うことができる。本によると現在の道路も、城下町をそのままだけ継いでいる場合が多いそうだ。町の様子が描かれた古地図と町の成りたちを解説したこの本を頼りに、現代の岡山に残る「江戸時代」を探しに行こう。

江戸期から昭和初期の美観地区をはじめとした倉敷市街中心部を歩く。昭和3(1928)年に市制が施行され倉敷市が誕生。記念発行された「倉敷市新地図」(巻末に付録)をベースマップに江戸時代の絵図や古い写真を使って解説。倉敷は商業・産業、そして何といっても大原美術館を代表とする文化のまち。明治以降の文化遺産も多い。地域の移り変わりを体感しながら、まち歩きが楽しめるのコースを提案。